

平成30年

な か た に

8月

中谷自治センターだより

～私達の中谷、「今」。
そして未来へ～

発行者：中谷自治センター

センター長：渡辺 光一

電話番号：0247-26-1457

FAX

:

<今月の予定>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 ・高齢者運動教室 9:00 ・敬老会第1回実 行委員会 19:00	3 ・子育てサロン 9:30 ・パソコン教室 14:00	4
5 ・いしかわスキッ ズ広場 10:00	6	7 ・ニコニコ会 8月 例会(2班) 9:30	8	9 ・高齢者運動教室 9:00 ・自治協議会第1 回理事会 19:00	10 ・子育てサロン 9:30	11 山の日
12	13	14	15	16	17 ・シニアスクー ル(ボーリング大 会) 19:00	18 ・親と子の読書会 16:00
19 ・いしかわスキッ ズ広場 10:00	20	21 ・防犯パトロール 18:00	22	23 ・高齢者運動教室 9:00 ・敬老会第2回実 行委員会 19:00	24 ・子育てサロン 9:30 ・パソコン教室 14:00	25
26 ・いしかわスキッ ズ広場 10:00	27 ・休館日	28	29	30 ・高齢者運動教室 9:00	31 ・子育てサロン 9:30	

おかげさまで 30年7月11日で開店三周年 あなたの健康を第一に!



手作り
惣菜・弁当
オードブル

食彩 あすか

店頭販売

水・木・金
15:00～18:00



予約電話・ファックス 0247-26-8588 (水・木・金 午後)

自治協議会からのお知らせ

- ・中谷総合文化祭予定 11月3日・4日
 - ・作品展への出展準備よろしくお願いします。
 - ・中谷バザーは11月3日実施予定です。
バザー用品のご提供を受付けておりますので、ご協力お願いします。

☆元気に那須茶臼山に登山☆

6月24日、青少年健全育成協議会中谷地区協議会において、年間計画の青空教室で「那須 茶臼岳」に登りました。好天の天候のもとメンズセミナーの皆さんのサポートを受けながら、参加した親子共々全員元気に頂上まで登り、怪我無く無事下山しました。



☆自治協議会 地域安全部会☆

6月26日、地域安全部会会議が開催され、平成30年度部会役員が決定した。また、防犯協会中谷支部・交通安全協会中谷分会・消防団中谷分団の平成30年度の事業計画を確認した。役員は下記に決定した。

- ・部会長 塩田 孝夫(交通安全協会)
- ・副部会長 鈴木 崇義(防犯協会)
- 大竹 芳男(消防団)
- ・事務局長 小針 幸栄(交通安全協会)
- ・部会委員 角田 幸吉(防犯協会)
- 岡部 智司(消防団)
- 瀬谷 徳吉(交通安全協会)



☆中谷まちづくり委員会 役員会☆

6月27日、30年度第2回中谷まちづくり委員会役員会が開催された。5月・6月の事業報告の後、各地区への交付金の交付、中谷地区まちづくり事業(H21~30)の総括(評価)について、役員アンケート結果の中間報告を受けた。最終総括は三役でまとめる事に決定した。先進地研修は8月26日宮城県丸森町へ、7月22日実施予定の久之浜親子で漁船への乗船体験と、タイルづくりの参加申込状況と、7月5日までの参加者最終人員の確認をした。「食彩あすか」ではNPO法人化に向けた検討に入るようになった。



☆いつでも楽しい 中田サロン☆

7月2日、旧中二小多目的ホールにおいて、講師に「高原栄征先生」によるハーモニカ演奏を聴きました。先生は前町教育長を務められた方で、現在認知症予防のため、東京でハーモニカを習って6年目になるそうです。現在母畑自治センターにおいて「ハーモニカ教室」を開催しているほか、依頼があれば出前演奏をするそうです。生い立ちから先生時代の懐かしい話の合間に懐メロの素晴らしい演奏を聴き、参加者全員で懐メロを歌い楽しい時間を過ごすことが出来ました。



☆シニアスクール移動研修☆

7月8日、シニアスクールで移動研修を実施、茨城県結城市の紬の里において、はた織りと藍染めの体験研修をして来ました。「コースター」のはた織りと、「ハンカチ」の藍染め体験をして、世界に一つしかない作品を作って来ました。作品は文化祭に出展予定です。



楽しかった 漁船乗船体験、タイルづくり

7月22日、久之浜との交流事業である、「海と山 夏休み漁業体験交流会」に67名の参加者にて、久之浜漁港において普段体験出来ない、約25分間の漁船乗船を体験しました。乗船後、久之浜漁協婦人部、久之浜地域づくり協議会婦人部の皆さんが早朝より準備していただいた、海の幸の昼食をご馳走になりました。昼食後場所を大久ふれあい館に移し『タイルづくり』をしました。作ったタイルは自治センターで乾燥後、色付けをして久之浜に運搬タイルを焼いて製品にし、9月頃久之浜東公園のベンチに貼り付けそうです。是非完成したベンチを見てみたいものです。

開会式前集合状況



漁船乗船状況



漁船乗船状況



昼食状況



タイルづくり状況



タイルづくり状況

中谷の民話 《昔 話》

七鍬石の由来

その昔、中谷が宇田谷の里、中田の里と言われたそのまた昔のことらしい。谷地、坂路、谷沢から形見、双里にかけての一带は一面に葦の生え茂る湿地であったそう
だ。したがって人々はこの湿地帯(谷地という)を避けて山岸や山の峰を通っていた
そう。しかしその湿地帯も人口の増加に伴って田んぼとして開田されていったあ
る年のこと。春雪がドッサリ降って五月半ばすぎても雪は消えず農民は田植えのた
めの荒くれお越しも出来ずに困りはてて居たという。雪の消えると同時に種蒔きか
ら田植えの準備の事とて農民の忙しさは実にネコの手も借りたい程のこと。昼夜の
別なく働く農民は遂に過労のため倒れる者が続出し、念願の農作業を断念せざるを
得なかった。そうした或る日のことどこからともなく現れた弁慶という大男は七本
穂の鍬を持ってきて先ず谷地から一人で田をうない初め谷沢の別当橋で腰から弁当
をおろして食べたことから弁当橋が訛って『別当橋』と呼ばれるようになった。
さらに弁慶は田を耕し形見の今の半鐘の下で一服し続けて双里まで耕したがあまり
鍬を使い過ぎたため鍬の切れ味が悪くなったので近くの手頃の石で鍬の刃を研いた
という。研いだ後に耕したのが本宮あたりで深く耕したためこの方部はすべて深田
になってしまった。一方鍬の切れが悪い頃耕したのが双里方部で浅く耕したのでこ
の方部の田はすべて浅田となったという。その七鍬を研いたといわれる石が即ち『七
鍬石』と名づけられ下双里字七鍬石にその研いた時の七条の傷跡が今なお残ってい
る。また弁慶が腰につけていた煙草入れの根付け石を忘れていったものに松が生え
てかの有名な「亀石の松」だという。